

行ない、WG I 期間中と特別な現象が発生した時にはもっと頻繁に行なうべきである。

3) IQSY 気象用ロケットゾンデ計画において用いられる測器についてのすべての適切な情報はちたいたく公表されるべきことは重要である。

4) ロケット観測によって気象要素の決定のために技術が開発される場合にはその相互比較についての用意がなされることが警告される。

5) 上層大気中のロケット観測を行なうすべての国は印刷形成で、観測した気象情報を出版することを要請される。

以上の内容であるが、IQSYには多くの国が気象ロケットゾンデ打ち上げ計画或はその希望を持っている。列挙すると、アフガニスタン・オーストラリア・フラン

ス・インド・イタリー・日本・パキスタン・南アフリカ・英国・米国・ソ連等が現在計画を持ち、その他の国でも参加の加能性がある。これらの計画の多くは当然のことながら、ひかえめな計画に始まり、観測地点の数又はその観測頻度を除々に拡大していくことは明らかである。日本の計画もその意味から着実に発展していくものである。我が国は丁度、高緯度における冬季の非常に傾圧性の強い地域と成層圏における気象要素の2年周期を持つ低緯度の中間に位置しているという観点から、将来の観測所の選定・観測頻度の決定等に考慮が払われるであろう。

IQSYに使用される測器の紹介は又別の機会にゆずり、その計画についてだけ簡単に紹介した次第です。

(関口理郎)

日本気象学会第13期各担当役員ならびに委員一覧表

- | | | | |
|----------------|------|-------------|-----------------------------|
| 1. 庶務委員 | 担当理事 | 北岡龍海 | 地区委員 (未定) |
| | 同 | 荒井隆夫 | |
| | 同 | 増田善信 | |
| 2. 会計委員 | 担当理事 | 桜庭信一 | 8. 講演企画委員 |
| | | 鈴木 徹, 春田正男 | 担当理事 |
| | | | 同 |
| 3. 外国関係委員 | 担当理事 | 須田 建 | 同 |
| | | 竹内清秀 | 同 |
| 4. 学会連合委員 | 担当理事 | 畠山久尚 | 9. 国際学術交流 |
| | 同 | 岸保勘三郎 | 委員 |
| | | | 担当理事 |
| 5. 気象集誌編集委員 | 担当理事 | 今井一郎 | 同 |
| | | 井沢龍夫, 内田英次, | 同 |
| | | 竹内清秀, 都田菊郎 | 同 |
| 6. 天気編集委員 | 担当理事 | 大田正次 | 10. 長期計画委員 |
| | | 小野 晃, 岡本雅典, | 委員 |
| | | 関口理郎, 片山 昭, | 担当理事 |
| | | 藤井幸雄, 三崎方郎 | 同 |
| | 地区委員 | 北海道 唐津 進 | 同 |
| | | 東北 吉田作松 | 同 |
| | | 関東 正務 章 | 同 |
| | | 関西 萩谷長男 | |
| | | 九州 山田三朗 | |
| 7. 気象研究ノート編集委員 | 担当理事 | 神山恵三 | 11. 国際雲物理会議組織委員 |
| | | 根本 修, 蔵重 清, | 畠山久尚 (委員長), 今井一郎, 岸保勘三郎, 正野 |
| | | 藤本文彦, 荒川昭夫, | 重方, 須田 建, 北岡龍海, 桜庭信一, 大谷東平, |
| | | 安藤正次, 竹内衛夫, | 孫野長治, 渡辺 浩, 岡田群司, 神原 健, 藤井義 |
| | | | 之, 小平信彦, 高橋喜彦, 磯野謙治 |